Vol..296　観光産業とタウンシティを組み合わせて（平成27年1月25日）

地方創生施策として裾野が広く、それぞれの地域の特性が生かせる観光産業を地方経済の活性化の軸とすると言う働きが今年は活発になると思われます。君津市もフルーツライン、清和観光センター、市内を３０分で結ぶ道路、構想を実施させて観光事業の受け皿にすると言うのであります。この構想を基本にどう生かすかは私達の知恵と勇気と決心であります。ここまでは消滅しかねない地元商店が生き残り、家族、近隣の人達が共に働き、結婚し、子供を育てる街を守って行く大事な役目があります。年金は減り、社会負担は多くなり、これからは中高年の人達の働ける場所の確保は地場産業しかないと私は思います。

地元経済界が倒廃業する理由はいくつもありますが、その一つに大型コンビニ等は「安いから」でなく、「便利だから！」「人が集まり多くの人達と会えるから」であります。

本来２０年くらい前までは商店会（街）が充分その機能を果たしてきましたが、バブル崩壊によって地方商店会を支えて来た資産価値がなくなり、大店法廃止によって追い打ちされ、一気に衰退への道を辿ったのであります。なぜ商店会が協同して時代の変化へ対応できなかったのか？個人商店の集まりの難しさ、今まで全く経験のない黒船襲来、議論、理論、目標はあったが実行に踏み切れなかった悔いがあります。なれば今、地方創生、観光産業と言うチャンスをどう生かすかについては鈴木市長構想に対して私達は次の世代の人達に傍観者と言われない様な具体的に挑戦をしなければなりません。私の提案でありますが、すでに十年余り前でありますが、会津若松から新潟へ入り７号線を北上して、山形、酒田、遊佐、象潟、金浦、本庄、岩城、秋田、男鹿へと日本海に沿って走りました。推測も入りますが、７号線が整備されたために旧道周辺に取り残された市町村は合併前の商店街が７号線ロードサイドに新しい商店街を作り、その中心にはコミュニティセンター、観光センターを入れ、隣には温泉風呂やクリニックを設け、左方には花、山野菜、漬物、手作りの食べ物、魚類、おみやげ、手芸品等の売店にレストラン、蕎麦やラーメン店等を並べ、右方には民宿、バンガロー等の宿泊施設が隣接する商店街（むら）がそれぞれの町や村に作られておりました。７号線を行く観光客でにぎわい、コミュニティセンターやクリニックを持つ施設は今求められるコンパクトシティの役割そのものでありました。あれから十年余りたったので、今はもっと改善されたかもしれませんが、君津には幹線道路が何本かあり、３０分間道路構想もあり、ＪＡ等の直売所もいくつかあります。観光客は東北の数倍です。奇しくも今朝の新聞に期待した地方創生予算は1900億円と報道されました。全国1742区市町村単純に考えて１市当たり１億円。過疎地には＋２億円であります。この予算を取り入れるかどうかは具体的な実行計画と熱意・実行力であります。浜田先生にもこの文はお渡ししました所、当選８回目の代議士、当選５回目の県議がいて地方創生が出来なかったと笑われない様頑張りますからと励まされて参りました。（於１／２１かずさ政経会）